

特250

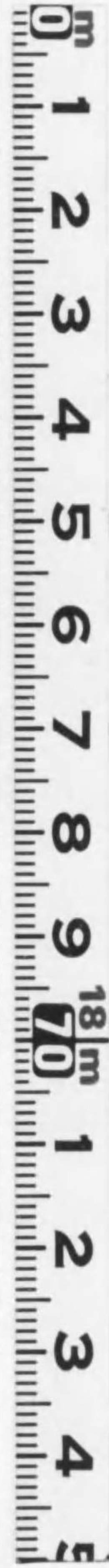
608

# 狀現の領ソ亞東

編社信通亞歐

内の丸・京東

行發社信通亞歐



# 始

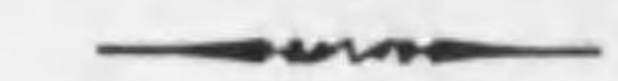




兵 站 基 地

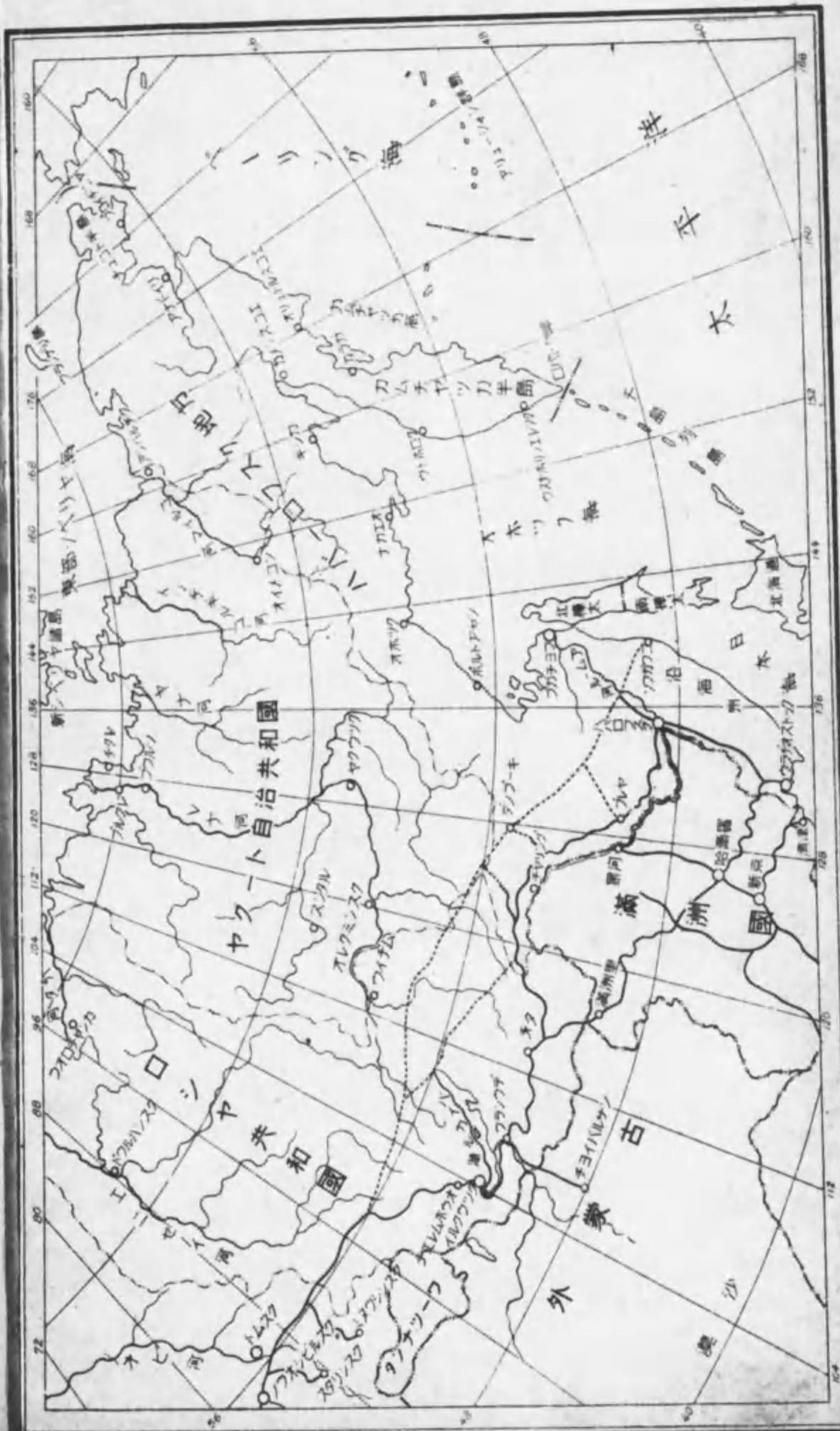
# 東 亞 領 現 狀

歐 亞 通 信 社 編



東 京 ・ 丸 ノ 内

株 式 會 社 歐 亞 通 信 社



目次

---

一、新しき認識の必要	一
二、自然地理	二
三、人口及び民族	三
四、政治組織及び黨員數	六
五、沿革	九
シベリヤ侵入	九
ソ聯治下の東亞地方	三五
六、ソ聯東亞地方産業概観	四三
七、各地方州別による最近の産業概観	四七
八、社會及び文化	五九

---

## はしがき

獨ソ戦は既に二年間死闘を繰返し益々凄烈化の様相を呈してゐる時、ソ聯の持つ抗戦潜力について特別の注目が拂はれてゐる。

ソ聯は獨ソ開戦後、西方第一線の老大にして資源豊富なウクライナ地方を喪ひ、今や第二、第三の兵站基地を東部へ漸移せしめつゝあるが、ソ聯全領域の一三%以上を占める東亞ソ聯の後方基地としての役割も蓋し重要な意義をもつものといへる。かつ東亞ソ領はわが、日本および滿洲國と蜿蜒數千軒にわたつて國境を接し、接壤地域としての觀點からもわれわれはこの東亞ソ領の最近の狀況について全般的知識を得ることは極めて緊要なりと確信し敢て本書を刊行した次第である、大方の必讀を乞ふて歇まなす。

昭和十八年七月

## 編者識す

### 一、新しき認識の必要

その昔、シベリヤの名で呼ばれたロシア東亞地方は嚴寒と白雪の別世界であつた。流刑囚、野狼の群、また河の底に光る金と獵奇的對照以外何物もなかつたであらう。

然しソ聯政府出現後、新に生れたソ聯東亞地方は建設の槌音高く響き、日毎に過去の姿から新しい衣替を行つて、その相貌を一變しつつある。未だ豊富なる各種資源は多く未開發であるが、將來この資源が活用されれば、ソ聯東亞地方は一個の大きな有機體として重大な發言權を持つは火を見るよりも明らかである。

加へて獨ソ戦、大東亞戦の勃發に従ひ、軍事的にもわが國の北邊に位置するソ聯東亞地方は世界戦局に於ける將來の發展性さへ持つに至つてゐる。今日ほどあらゆる意味から北方への關心、その新たなる認識を要求する時はないと信ずるものである。

## 二、自然地理

### 位置、行政区劃

一般にソ聯東亞と言へば舊極東地方及び東部シベリヤを合した廣義の地域で、アジヤ大陸の最北東部に位するソ聯領最東地方である。

北緯四十二度より七十一度、東經九十八度から百九十度に亘り、北は北氷洋、東は太平洋、南東はオホーツク海、日本海にそれ〴〵面し、南東部の一端は圖們江を隔て、朝鮮、南部は四千キロに亘りウスリー河、黒龍江、アルグン河に依り滿洲國と相對し、更に外蒙古(外蒙古人民共和國)、トウワ人民共和國と接し、西部はクラスノヤールスク地方に續いてゐる。然して、その北部にヤクト自治共和國が横たはるが、通常ソ聯東亞地方にはこれを包含してない。

面積は四百七十五萬二千四百平方呎、ソ聯總面積(一九三九年現在のもの)の二十二パーセントに當り、わが日本領土の七倍弱、滿洲國の三倍強に相當する。

行政区劃はソ聯邦内、ロシヤ共和國の次の諸地域に依り構成される。

沿海地方(プリモールスキークライ)。内譯直轄區(舊沿海州)(十區)、ウスリー州(十八區)

ハバロフスク地方。内譯直轄區(舊ハバロフスク州及びコルイマ管區)(民族區三區を含む十區)、ユダヤ自治州(四區)、アムール州(十七區)、サハリン州(北樺太)(五區)、ニジネアムール州(六區)、カムチャッカ州(民族區九區を含む十五區)。

チタ州(民族區三區を含む三十四區)

イルクーツク州(民族區五區を含む三十二區)

ブリヤート蒙古自治共和國(十五區)

註||現行ソ聯行政区劃(一九四三年五月現在)に依れば東亞(極東)地方といふ名稱なく、その區劃は甚だ明瞭を缺いてゐる。ヤクト自治共和國は從來、レナ河或はヤクーツク・イルクーツク間道路で中部シベリヤ鐵道と結びついてゐたが、最近はおホーツク海沿岸地帯並にアムール鐵道沿線、また北氷洋の航路開發に従ひ東シベリヤ海、ベーリング海を経て東南下し沿海地方と連絡してゐるからヤクト自治共和國をソ聯東亞地方に包含して、些かも不思議では

ない。事實、ヤクート共和國の地下資源はソ聯東亞の建設に大いに利用されてゐるのである。前記、ソ聯東亞地方（沿海、ハバロフスク、東部シベリヤ）にヤクート共和國を合すれば全面積は六百八十六萬九百平方呎に達する。

但し本編に於てはヤクート共和國を除外する。

## 地 勢

**沿海地方** 日本海沿岸寄りに丘陵性のシホテアリン山脈が南北に走り、南部はピートル大帝灣北部はアムール河々口にそれ〴〵至つてゐる。同山脈は日本海沿岸に於て急峻を成し、反對側の西部に於ては緩慢な傾斜状を造つて諸河川の水源地となつてゐる。中央部の最高地は海拔一千五百米に達してゐる。

シホテアリン山脈が縦走するため、日本海沿岸、間宮海峡沿岸は概ね單調で、僅かにソヴェトスカヤ・ガワニ（ソフガワニ）、デ・カストリー灣のみ船舶の出入が出来る程度である。然し南部のピートル大帝灣からオリガまでの間、海岸線は屈折に豊み、港灣にウラヂオストー

ク、ボシラト、オリガ等がある。

シホテアリン山脈の西部はウスリー河流域平野と連り、特にウスリー河、イマン河の合流地点以南は廣濶となり、興凱湖（ハンカ湖）を中心とする沿興凱平野と結びついて海岸方面に至つてゐる。沿興凱平野には興凱湖に注ぐ諸小河川が部分的に溪谷を形成してゐる。

**ハバロフスク地方** スタノヴイ山脈の南部傾斜面に影響されアムール地方の全北部は丘陵状を呈するが、西南部に行くに従ひ漸次臺地状となり、スタノヴイ山脈とアムール河及び流域諸河川、並にゼーヤ河溪谷との間にアムール・ゼーヤ臺地（平均海拔三百米）を作る。更にゼーヤ河から南部に移りブレイヤ河流域に至つてブレイヤ平野を現出し、次いでアムール河までの地域はソ聯東亞地方の穀倉といはれる沿アムール（沿黒龍江）平野が展開されてゐる。

ブレイヤ河の東部より子午線に沿つて小興安嶺山脈が延びてをり、その支脈はオホーツク海のウダ灣に至つてゐる。ニジネ・アムール州のオホーツク海岸寄りには、さほど高くないジグジュル山脈が走り、また舊コルイマ管區にはコルイマ山脈が東部に走つてゐる。小興安嶺山脈の東部はアムール河下流の所謂太平洋低地である。そこには多數の小河川が流れ合ひウドイ

リ、キジ、チリヤ、オレリ等の湖沼を抱いてゐる。

ニジネ・アムール州、舊コルイマ管区の海岸線は概ね単調であるが、近年大いに利用されてゐるナガエツ・灣はじめオホーツク港、アヤン港があり、アムール河口にはニコラエフスク港（ブカチヨフと改名）がある。

アムール河は蜿蜒四千三百九十二軒、間宮海峡（タタール海峡）に注ぎソ聯東亞の最大河川である。そしてアムール水系にはオノン、インゴダ、シルカ、アルグン、ゼーヤ、ブレーヤ、ウスリー、アムグン等の支流がある。

サハリン州（北樺太） 北緯五十度の一線を以てわが南樺太と相接するサハリン州は、東西両海岸に沿つて二條の山脈が縦走する。東部山脈にはネヅ・リスカゴ山（二、〇二三米）、ロバディナ山（一、六三四米）等の高峰があり、西部山脈は最高峰九百米で一般に低い。また北部には丘陵性山脈たるビーヤ高地がある。

東西両山脈の間にはツイミ河が北流しオホーツク海に注ぎ、ポロナイ河（幌内）が南流してわが南樺太の多來加灣に注いでゐる。

ツイミ河、ポロナイ河流域は凹地帯を形成し平野を展開してゐる。

このほかピリツン河、ワール河、ダーギ河、ナビリ河などがある。最大河はツイミ河で延長約三百軒である。

海岸線は東西兩岸とも概ね単調で良灣に乏しく、東海岸には多くの瀉湖（キヤツクル、チャイスキー、ヌイスキー、ナビリスキー、ルンスキー）を作り長い砂洲がある。西海岸には斷崖多く入江が全くない。

サハリン州の南北の長さは四百九十二軒、東西の幅は最大百七十四軒で全面積三萬八千五百平方軒、即ちわが南樺太よりやや大きく、臺灣より若干大きい。

西海岸にはアレクサンドロフスク港、東海岸北部にはオハ港があり、北部一帯はツンドラと沼澤地帯である。北樺太と舊沿海州の間は間宮海峡（タタール海峡）で最大幅百キロに達するが、最も狭い所はボゴビ岬と舊沿海州のラザレフ岬の間で僅か八軒である。

カムチツカ州 オホーツク海とベーリング海に挟れた火山半島たるカムチャツカ半島と東シベリヤ臺地の東邊を成すオホーツク海西岸部及びユーラシヤ大陸の東北端をなすベーリング半

島部の三地域から形成されてゐる。カムチャツカ半島の中部には平均標高一千二百米の中央山脈があり、その東部に併行して東海岸を縦走する東部山脈があり、その間をカムチャツカ河が流れてゐる。

カムチャツカ半島は太平洋火山圏に屬し、活火山十九、休火山約三十七を數へ、活火山の最高峰はクリュチーフスカヤ山(四、八六一米)、最も噴火が激しいのはカルイムスカヤ山(一、三二〇米)で、付近には温泉が湧出する。

北部大陸と結びつく一帯は山地、ツンドラ地帯多く不毛の地帯である。

カムチャツカ半島の西北部はシレホフ灣を作り、東北部にはオリュトルスキー灣、コルフ灣があり、東海岸にウスチ・カムチャトスク港、ベトロバプロフスク港がカムチャツカ半島の出入口をなしてゐる。

カムチャツカ半島の東方にはコマンドル諸島、カラギンスキー島がある。

なほカムチャツカ州の北部大陸にはジュグジュル山脈、コルイマ山脈が流れ込み、北東方にはアナドリ山脈の南端が続いてゐる。

**チタ州** チタ州は東南部に於て滿洲國、西南部に於て外蒙古と接し、西部のブリヤート蒙古との間にヤプロノヴィ山脈が北東から南西に走つて海拔九百米乃至千米の高原狀を呈してゐる。チタ州とブリヤート蒙古を合した地方、即ちバイカル湖以東はザバイカル地方と呼ばれ「アジア最初の高地」といはれてゐる。

ヤプロノヴィ山脈は單にチタ州を支配するばかりでなくソ聯東亞地方の屋臺骨を成し、西南斜面はバイカル湖に向つて低下し、東南斜面は太平洋方面へ漸次下降し、概して平野は少い。

然し西南部のオノン河とアルグン河に狭れた地帯は平原的草原で、また滿洲、外蒙との接壤地帯も草原地帯である。

**ブリヤート蒙古自治共和國** この地方はチタ州と合してザバイカル地方を形成し、チタ州とほぼ同じ丘陵性地勢にあり、廣大なる平原には恵れないが、諸所にチタ州と同じく曠野が點在する。

世界第五のバイカル湖が、この地方の中西部に横はり、セレンガ河、バルグジン河がこれに注ぎ、レナ河系のヴィチム河と共にブリヤート蒙古地方の灌溉水系を成してゐる。



イルクーツク地方 レナ、エニセイ兩大河の中間に形成される中央シベリヤ臺地の南東部に位する。この臺地はアンガラ大テールランドといはれ、北方に向つて緩漫狀に低下してゐる。北東部にはヤクート自治共和國との境にバトム臺地があり、バイカル湖西邊にはバイカル山脈、南部のトゥワ人民共和國との間に東サヤン山脈が聳り立ち、西方はクラスノヤールスク平原と結びついてゐる。

住民居住地域の大部分は海拔三百米乃至四百米にあり、バイカル湖からイルクーツク地方を通つて北流するアンガラ河は北氷洋に注ぐエニセイ河となる。また同じレナ河はバイカル山脈から發してゐる。

バイカル湖は面積三萬二千二百平方料、ヤプロヌイ、東サヤン、バイカルの諸脈とバイカル、オクレマ高原の間に位し、その最深部は一千七百四十一米に達し世界の湖沼中、水深に於て第一である。

## 氣 候

海岸線の一部を除けば所謂大陸性氣候で、冬季は空氣が乾燥し晴天が比較的續き降雨量は少いが、夏季には曇天、降雨が多い。然しアジア大陸と太平洋の季節風の影響に依つて氣象は複雑性を呈する。

冬季が一年の半分以上を占め、この間降雪に見舞はれ、冬から夏へ急速に移る。わが國の如き春季、秋季の氣候は殆んど見られない。夏季の日中溫度は上昇するが、朝夕はずつと下り、年平均氣溫は極めて低い。例へばウラヂオストーク市の一月に於る最大氣溫は零下六度六分、最低氣溫は零下十七度五分、平均零下十三度六分、七月に於る最高氣溫は二十一度七分、最低十五度六分、平均十八度八分であり、チタの一月に於る最高氣溫零下二十一度六分、最低零下三十二度一分、平均二十七度七分、七月に於ては最高二十度七分、最低十六度五分、平均十九度を示してゐる。

年平均降雨量はカムチャッカ半島東南岸の九百耗を最高として、その他は三百耗乃至六百耗といふ僅かなものである。そしてこの大半は雨季の七月、八月、九月の三ヶ月間に降り、時には豪雨となつて洪水を惹起する。

降雪日数は長いが、降雪量は比較的少い。最高降雪量はカムチャッカ半島の山岳部で一米二十  
 糎で北樺太、アムール河々口地帯は三十糎乃至六十糎、チタ付近では十糎以下である。他方、  
 降雨日数は大陸内部に入るに従つて増加し舊沿海州南部の百餘日未滿を最低とし、カムチャッカ  
 半島山岳部の二百二十日を最高とする。

河川或は海洋の解氷期はウラジオストークに於て平均三月二十七、八日、同結氷期は十二月  
 十日から同月末までの間であり、チタでの解氷期は五月一日、結氷期は十一月十日、イルク  
 ツクでは解氷期三月中旬から五月初めまで結氷期は十二月中旬より翌年の二月初旬過ぎまでの  
 間である。

### 三、人口及び民族

ソ聯東亞の人口は一九三九年一月の國勢調査後、發表されず、獨ソ戰勃發に依つて多少の人  
 口移動が行はれたものと推察されるが、現在の數字は未詳である。

一九三三年一月一日現在の所謂ソ聯東亞地方の人口は左表の如くであつた。(單位千人)

地域	首都	人口		
		農村	都市	計
(一)極東地方				
アムール州	ハバロフスク	一、一三・七	七七・四	一、八六・一
ゼーヤ州	ブラゴヴェスチエンスク	二八五・四	一三七・九	四二三・三
カムチャッカ州	ルフロヴオ	六八・九	四七・五	一一六・四
ニジネ・アムール州	ペトロバウロフスク	五二・七	六・六	五八・三
沿海州	ニコラエフスク	六七・七	三〇・〇	八七・七
サハリン州	ウラヂオストーク	一五九・〇	二五六・三	四一五・三
ウスリー州	アレクサンドロフスク	三五・〇	三五・〇	七〇・〇
ハバロフスク州	ウオロシロフ	二七八・二	九六・七	三七五・〇
ユダヤ自治州	ハバロフスク	一一六・六	一一五・五	二三二・一
	ビロビジャン	三三・〇	三三・〇	六六・〇
(二)東部シベリヤ地方	イルクーツク	一、六四三・七	五七〇・六	二、二一四・三

ブリヤート蒙古

ウラン・ウデ

五五・二

七〇・七

六〇五・九

然して一九三四年一月の國勢調査に於ては總人口五百三十二萬六千四百三十九人（ソ聯全人口一億七千四百六十七萬七千八百八十六人）、このうち都市人口二百三十四萬八千一百六十三人、農村人口二百九十七萬八千二百七十六人を數へ、一平方軒當りの人口密度は僅に一・一二二人に過ぎない。次にその内譯を見てみよう。

地 域	都市人口	農村人口	合 計	一平方軒當りの人口
沿海地方	四四四、五〇九	四四三、七二一	九〇七、二三〇	四・三九
ハバロフスク地方	六四七、六五三	七八三、三三三	一、四三〇、八七五	〇・五五
(うちユダヤ自治州)	七一、六三四	三六、七八五	一〇八、四一九	二・六七
チ タ 州	五二〇、九〇〇	六四八、五七八	一、一五九、四七八	一・六一
ブリヤート蒙古	一六三、三三五	三七八、七四五	五四二、一七〇	一・六三
イルクーツク州	五六一、六七六	七二五、〇二〇	一二八六、六九六	一・三九
計	四、七五一、四〇〇	二、九七八、二七六	五、三三六、四三六	一・二二

人口増加表 (單位千人)

地 域	一九二六年	一九三二年	一九三九年	一九三九年より二九年に至る年平均増加數
沿海地方	六三八・八	八三〇・五	九〇七・二	二・三三
ハバロフスク地方	六〇六・二	八九〇・三	一、四三〇・八	六・八七
チ タ 州	六七〇・二	七三六・八	一、二五九・四	四〇・七
ブリヤート蒙古	三九〇・〇	四六八・八	五三二・一	二二・七
イルクーツク州	八三三・四	九六七・八	一、三八六・六	三五・三
計	三、一六八・五	三、八三三・一	五、三三六・一	一七九・八

註IIハバロフスク地方の一九三二年欄人口のみ一九三三年現在

主要都市人口増加表 (單位一人)

都 市 名	一九二六年	一九三二年	一九三九年
ウラヂオストロク	一〇七、九八〇	一六〇、七九〇	二〇六、四三三
ス ー チャン	六、五〇〇	一一、〇〇〇	一六、〇〇〇

アルチム	四、〇〇〇	一八、〇〇〇	三〇、〇〇〇
ウァロシロフ	三三、三四四	五九、〇〇〇	七〇、六八
ハバロフスク	五二、〇四五	八九、〇〇〇	一九、三六四
ビロビジャン	〇九〇	五、二〇〇	—
ブラゴヴェスチンスク	六一、二〇〇	六一、二〇〇	五八、七六一
コムソモリスク	—	—	七〇、七四六
チタ	六一、五二六	七一、四〇〇	一〇二、五五五
ウラン・ウデ	二八、九二八	五五、〇〇七	一三九、四二七
イルクーツク	一〇八、二一九	一四二、二〇〇	三四三、三八〇
チェレムホヴォ	一四、四八五	三三、二〇〇	六五、九〇七

かくの如くソ聯東亞の人口は増加の一途を辿り、一九二六年末より一九三九年一月までに二百十五萬七千六百人を増し、年平均十七萬九千八百人を數へてゐる。然し、その尨大なる面積に比れば人口は極めて少く、カムチャッカ州の人口密度は一平方軒

に就き〇・〇九人といふ一人にも到底満たない有様で、最高密度も沿海州の四・三九人に過ぎない。人口密度は南部に於て多く、北部となるに従ひ稀薄となり、隨所に無人境がある。人口増加の原因は自然増加に依らずして殆んど移民に基く増加である。殊に一九三一年九月（昭和六年）、滿洲事變以後、政府の奨励策と半ば強制的な大量移民で増加し、更に第二次五年計畫後、急増した。

全人口のうち都市人口多く、その農村人口に對する比率は四十四對五十六パーセントを示してをり、都市集中人口が工業の建設、發展と重大な關係を持つてゐる點は見逃し得ないところである。殊に沿海地方に於ては都市人口より農村人口の方が少いのである。

一九三九年一月の國勢調査に依る人口構成別は女子が男子に勝り、女子百八人に對し男子百人の割合であつたが、この比率は獨ソ戰役、男子の召集とウラル方面への徴用を考慮すれば依然、女子が多いと觀察される。

ソ聯東亞の人口を構成する民族は頗る複雑である（勿論、これはソ聯を解剖しても同様で、ソ聯の一特色とも言へる）。二十二種の土着民族と西方からの移住民族十一種があるとされる

が、通説次の五群に分けてゐる。

スラブ族（移住民）

大ロシア人、小ロシア人、白ロシア人、ポーランド人その他。

トルコ族（原住民）

ヤクート人、チュワシ人、タタール人その他。

蒙古族（原住民及び移民）

ブリヤート人、ツングース人、支那人、朝鮮人その他。

フィン族（移民）

モルタヴァ人、オスチャク人、サモエート人、ソイホト人、エスト人その他。

古代アジア族（原住民）

ユカギル人、コリヤーク人、アレウト人、ギリヤク人、チクチ人、カムチャダル人、エスキモーその他。

このほか移民たるユダヤ人もユダヤ共和国を中心として相當數在住するが、主なる諸民族の

人口概數は次の通りである。

大ロシア人	三百九十五萬
白ロシア人	二十萬
小ロシア人	(ウクライナ人) 五十五萬
ブリヤート蒙古人	三十五萬
ツングース人	三萬
支那人及び朝鮮人	五萬
古代アジア族	三萬
ユダヤ人その他	十五萬

各民族のうちスラブ族、特にロシア人が大部分（約八十パーセント乃至八十五パーセント）を占め、ロシア人口の消長が全人口を支配してゐる。

大ロシア人 ソ聯東亞に於るスラヴ人人口の約九割を占め、この地方に最初に入植したヨーロッパ種である。入植當時はザバイカル地方南部、アムール河左岸地帯であつたが、次第に東

行し遂に太平洋に進出、専ら狩獵、漁撈に従ひ、その後、各種建設に従事し、ソ聯政權誕生後は凡ゆる重要部門の指導的地位を占め今日に至つてゐる。

**小ロシア人** 彼等は大ロシア人が陸路東方に侵入して來たのと異り、遠くオデッサから海路アムール河畔に移住した。時に一八八二年のことであつた。彼等は専ら舊習、傳統を墨守したため、その發展も遅れ、積極的に開發に乗り出す意志を持たなかつたので、今日でも依然として大ロシア人の傘下に收められてゐる。

**白ロシア人** 大ロシア人、小ロシア人に遅れ移住、沿海州方面に集つたが主として農業に従ひ漁業を行はなかつた。

なほ少数民族のほか混血民族も存在するが、そのうちロシア人とブリヤート人との混血種『ザバイカル』混血種が多い。これは嘗て十八世紀の中頃、流刑されて來たロシア人男子とブリヤートの子女をロシア政府が結婚せしめたことに依る。

以上の諸民族中、一特色を持つのはスラヴ人以外の西歐民族たるユダヤ人である。彼等は帝政ロシア末期より政治犯人として西歐から送られ、ソ聯誕生後、ビロビジャンにユダヤ人のみ

の自治州が建設され、ソ聯各地に散在するユダヤ人農民が専ら吸収されてゐる。

ソ聯東亞の各地方、各州に於る面積、人口、首都及びその他の市邑を挙げれば次の通りである。

### 沿海地方

面積 二十萬六千六百平方軒

人口 九十萬七千人(都市人口 四十六萬四千、農村人口 四十四萬二千)

首都 ウラヂャストーク

### 直轄區(舊沿海州)

面積 九萬六千七百平方軒

首都 ウラヂャストーク

主なる市邑 アルチム、スーチャン、ボシニト、オリガ、チニチム、ヘ、アムグ、ソヴェートニカヤ・ガワニー、ネリマ

### ウスリー州

面積 十萬九千九百平方糎

首都 ウ・ロシ・ロフ

主なる市邑 スバスク、イマン、レソザヴァードスク、グロデコヴ・

### ハバロフスク地方

面積 二百五十七萬二千平方糎

人口 百四十三萬（都市人口 六十四萬七千、農村人口 七十八萬三千）

首都 ハバロフスク

### 直轄區（舊ハバロフスク州、舊コルイマ管區）

面積 五十七萬六千平方糎

首都 ハバロフスク

主なる市邑 コムソモリスク、ピキン、マガダン、タスカン、セイムチャン

### ユタヤ自治州（エヴレイスカヤ・アフトノームナヤ・オーブラスチ）

面積 三萬六千八百平方糎

人口 十萬八千四百

首都 ビロビジャン

主なる市邑 オブルーチエ、スミドヴィッチ、スターリンスク

### アムール州

面積 二十一萬三千八百平方糎

首都 ブラゴヴェシチェンスク

主なる市邑 スヴァ・ボードヌイ、クイブイシユ・フカ、ザヴィータヤ、ブレイヤ、シマコフス

カヤ

### サハリン州（北樺太）

面積 三萬八千五百平方糎

首都 アレクサンドロフスク

主なる市邑 オハ、ドウエ、オクチャ・プリスキー、モスカリヅキ、キーロフスコエ、ベレシチ

＊ギノ、ノグリキ、チャイヅキ、グロデコヴィ、ムガチ

**ニジネ・アムール州(下アムール州)**

面積 五十四萬九千六百平方糎

首都 エコラエフスク(ブガチヨフ)

主なる市邑 オホーツク、アヤン、チュミカン、ファクト

**カムチャツカ州**

面積 百十五萬三千平方糎

首都 ペトロバウロフスク

主なる市邑 パラナ、ウスチ・カムチャトスク、チギリ、オリュトレスキー、テリチキ

**東部シベリヤ**

面積 百九十五萬一千平方糎

人口 二百九十八萬八千(都市人口 百二十三萬六千、農村人口 百七十五萬二千)

**チタ州**

面積 七十二萬平方糎

人口 百十五萬九千

首都 チタ

主なる市邑 ペトロバウロフスク・ザバイカルスキー、ネルチンスク、ゼーヤ、スコヴァロ  
チノ、スレチェンスク、バレイ、シルカ、オロツァンナヤ、ダラスーン、モガチャ、アギン  
スコエ、オトポール、エローフェイ・バヴロヴィチ、アクシャ、ドリドルガ

**ブリヤート蒙古自治共和國**

面積 三十三萬一千四百平方糎

人口 五十四萬二千

首都 ウラン・ウデ

主なる市邑 キヤフタ、タンホイ、バプウシキン(ムイソフスク)、チコイ、ツァキル、ヴ  
ルフネ・アングールスク、ウスチ・バルグジン

**イルクーツク州**

面積 八十九萬九千平方糎



人口 百二十八萬六千

首都 イルクーツク

主なる市邑 タイシヌト、ニージニー・ウージンスク、チュレムホヴァ、ウソリーエ、キレンスク、スリニジャンカ、ボダイボ、ジマー、トウルウン、クチュガ、ウスチ・オルダ、シトカ、プラトスク、ジガロヴァ、タリツイ、ミシレフカ

註II人口は一九三九年度のソ聯國勢調査に依る。

#### 四、政治組織及び黨員數

ソ聯東亞地方の政治はロシア共和國の組織下にあり、ソ聯政治組織の一單位である。

地方、州、自治州、民族管區、行政管區、市及び市區、區、村等に各ソヴィエト機關があつて各下部政治組織を構成し、各ソヴィエト機關の代議員は選舉に依り選出される。

一九三九年十二月、地方、州のソヴィエト機關選舉が行はれ、次の如き議員數を有してゐる。

地方、州名稱	總數	内婦人議員數	内共產黨員數
沿海地方	八五	二四	五七
ハバロフスク地方	一〇九	二四	未詳
ユダヤ自治州	六七	一四	四四
チタ州	七九	一六	六〇
イルクーツク州	八七	二二	六二

但しブリヤート蒙古自治共和國は沿海、ハバロフスク地方その他各州組織と異り、自治共和國として區(ライオン)の代りにアイマク旗といふ行政區劃があり、その政治組織は形式的ながら最高ソヴィエト(最高會議)の下に各人民委員部が存在する。

東亞地方の共產黨機關もソ聯内黨組織の一單位をなし、他地方と同様であり、黨員數は人口に比例して高く一九四一年一月の推定數字では沿海、ハバロフスク兩地方を通じ正黨員並に黨員候補約十萬と計算されてゐる。然し獨ソ戦後は全ソ聯に亘り従來の黨員、黨員候補の資格検査が簡易化され、續々その數が増加してゐるのであるから東亞地方の黨員、黨員候補數も急増

してゐるものと見られる。

共産黨員数の高率（對人口）はソ聯東亞地方の政治的重要性を物語るものである。

ソ聯東亞地方各政治機關の主なる責任者名は次の通り（一九四三年四月現在）

沿海地方 執行委員會議長 チュバローフ（ベ・カ） 黨委員會第一書記 ペゴフ（エヌ・エム）

ウスリー州黨委員會第一書記 チェレンチエフ（イ・エヌ）

ハバロフスク地方 執行委員會議長 イストーミン（ヴェー・エム）

黨委員會第一書記 ボルコフ（ゲ・ア）

チタ州 執行委員會議長 ドロズドコフ（イ・ベ）

黨委員會第一書記 クズネツォフ（イ・ア）

モロトフ鐵道局長 グンドーピン（エヌ・ア）

ブリヤート蒙古自治共和國 最高會議幹部會議長 ボルソーエフ（イ・ベ）

人民委員會議々長 イワノフ（エス・エム）

黨委員會第一書記 イグナチエフ（エス・デ）

軍關係 東亞正面軍司令官 アバナセンコ大將、同參謀長スモロジノフ大將 太平洋艦隊司令官 ユマーシエフ中將（東亞正面軍司令官は一九四三年六月フルカーエフ大將がアバナセンコに代つたといはれる。）

## 五、沿 革

### (一) シベリヤ侵入

#### (イ) バイカル湖以西

歐露と地續きながらロシアの廣大な地域は永い間東部地方を人跡未踏のままに置いた。ロシア大陸の東方にかかる廣大な地域があることは交通未發達に依り一般に知られず、歐露で東方地方と呼ばれるものは二十世紀の初めまで概念的にウラル付近を指してゐたほどである。

ウラル以東にロシア人が侵入したのは一五八一年、ドン・コザックの一隊侵入に初まる。

當時、イワン雷帝の暴政に依つて農村は極度に疲弊した結果、農民はドン河、ドニエプル河

方面に逃げ、そこにコザック部落を構へた。このコザックは糧を得るためと政府に對する反抗から掠奪隊を作り盛にヴォルガ河流域地方を荒し廻り殊にエルマークの率るコザックは大きな勢力を占めてゐた。

モスクワ政府はエルマーク一派に對し討伐軍を起す計畫を進めたので、これを察知したエルマークは五百餘人の手兵を率てヴォルガ流域からウラル方面へ移るに至つた。

當時、ウラル山脈の東部、オビ河、イルツイシユ河、ツィラ河一帯に成吉思汗の後裔に當るクチュムが西伯利汗國を作りタタル、オスチャク、ヴォグール等の諸民族に君臨しモスクワ政府に對して表面従ふものの、その勢力範圍をカマ河、ドヴィナ河方面へと次第に擴大してゐた。モスクワ政府はカマ河、ドヴィナ河地方に移住してゐた富農ストロガーノフを以てクチュムの侵寇に備へさせてゐたが、ストロガーノフは、彼の勢力を増大しクチュムに對抗するため、折から移住し來つたエルマークのコザックを雇入れ、彼等に武器を與へた。

エルマークのコザックはクチュム軍と屢々戦ひ、これを撃退したが、その後武力を使ふ折なく無聊に苦しむコザックは、またも掠奪を行ふやうになつた。

驚いたストロガーノフは、コザックの一行を追拂ふためエルマークに金を與へ、その東方進出をすすめ、結局一五八一年九月エルマーク一派は東方に進みウラルを越へ西伯利汗國の領土に迫つた。

クチュム軍とエルマーク一派の戦争は、エルマークの勝利に歸し、一五八二年十月エルマークは首都シビリに入城し、モスクワのイワン四世に東方占領地の献上を願ひ出た。イワン四世は大いに喜びエルマークを賞すると共に政府軍の來援を約したが、一五八四年八月、エルマークはタタール人の奇襲に遭つて殺されてしまつた。

然しエルマークの西伯利汗國攻略に依り、ロシア人の東方に對する欲望は冒險心が手助つて次第に昂まり、シベリヤへシベリヤへと長途の旅に出る者が多くなつた。彼等の中にはモスクワ政府の重壓から逃げ出し新らしい土地を東に求めて進む農民、政治的異端者もゐた。

東漸するロシア人たちは専ら河川の流れに沿つて進み各地の土民を撃退、一六二八年から二十一年間にクラスノヤールスク、イリム、ヤクーツク、ブラーヅクに進出するに至つた。ヤクーツク方面のコザックは一六四八年更に東進しアナドウイルに到達、また他の一隊はオホーツク

海岸に着き、一六五一年にはスタドウヒンの率る一隊がベーリング海に出た。

これらの東漸は北方路であつたが、南方路を進むコザックは幾度となく土民と衝突、これを撃退、更に十七世紀の初期、ザバイカル地方に豊富な毛皮の産するを知つたコザックはザバイカルに入り、ブリヤート蒙古人と衝突、ここに爾後、數十年に亘り彼等の抗争は繼續され、この間コザックはイルクーツクはじめバイカル湖以東各地に要塞を築いたのである。

#### (ロ) バイカル以東への進出

バイカル湖以東にアムール河はじめ各河川が流れ、そこに農業に適する沃野が横たはるのを窺知したロシア人は、更に東進を決し、モスクワ政府も當時、アムール河一帯を収める清國軍との戦争を覚悟でバイカル湖より東方に向つた。

かくて露清抗争は一六八九年のネルチンスク條約となり、また一七二七年のプリンスキー條約に至り、ロシア人は一步一步東漸し清國勢力を追拂つてゐた。

ロシア人の『大洋』を求める東方進出の欲望は止るところを知らず、一七四二年には水兵シ・ルチングが樺太島を發見し、十九世紀に入つてオホーツク沿岸から更に南下する態勢を示した。

た。

ロシア人の欲望は、ベーリング海からアラスカ、カムチャッカ半島から千島、日本へ、オホーツク海から蝦夷、日本へ、また蒙古方面へと向ひ虎視眈々としてゐたのである。

一八五八年の璦琿條約、一八六〇年の北京條約締結で東亞地方を掌中に収めるまでにロシア政府はアムール河流域を中心として着々地歩を固める一方、歐露から流刑囚を移し、その開發に従事させた。

北京條約成立すると同時に、ロシアは東の玄関として『ウラヂャストーク』を開いた。即ち東方を支配せよといふ露骨な言葉をその街に冠したほどである。

爾來、ロシア政府の東方經營は躍進し、各地の地下埋藏資源を採掘し、近代的工業も建設された。

然しながら、更に東亞地方の南に續く滿洲、更に朝鮮と南の海港を欲する野望が頭をもたげ一八九一年三月にはシベリヤ鐵道の建設を開始し、東亞地方の武力強化を計つた。

一九〇四年、五年に亘る日露戦争の結果、ロシアの南下策は挫折し、また歐露に起つた革命

擾亂は極東地方をも物情騒然たらしめるに至つた。

歐洲大戰の勃發、次いで起つた革命は遠く東亞地方にも波及し従來、ハバロフスクに在つた沿アムール總督を廢し、知事制を停止して、コミッサール制を採用、各州、縣、郡、村にゼームストヴォといふ地方自治會を組織した。

一九一七年十月、レーニンの率るボリシェヴィキ派が政權を獲得しソヴェート勞農政府を樹立するに至つたので、東亞地方各地にもコミッサール制、ゼームストヴォ制が廢止され勞働者、農民、兵士等の代表ソヴェートが結成された。

この共產主義政治體制に反對して各地に白系軍の蜂起を見た。即ちセミノフ將軍の率るザバイカル政府、コルチャック提督のオムクス政府、メルクローフのウラヂャ政府等で一時、東亞地方の政治、状態は全く混亂に陥つた。

わが日本は當時、居留民の保護とシベリヤに追はれたチッコ・スロヴァキヤ軍の援助を目的として米、英、佛軍と共にシベリヤ出兵を行ひ（大正七年八月）白系軍を助けてバイカル湖以東の各地を占領したのである。

その後、情勢の變移に従ひわが軍は大正九年アムール州及びザバイカル州から撤兵、同十一年（一九二二年）沿海州からも撤兵するに至り、同年四月六日、ヴェーニルフネ・ウージンスタに於て極東共和國創建の決定を見た。然し翌一九二二年十一月、この極東共和國はロシヤ社會主義共和國內に編入され、ここに東亞地方はその一州たる極東州として新に發足したわけである。

### (二) ソ聯治下の東亞地方

ソ聯政府誕生後より第一次五ヶ年計畫實施までの約十年間、この東亞地方の建設は部分的に國內戰時代の荒廢復舊にとどまり、全面的開發などは全く行はれなかつた。

一九二五年、わが北樺太保障占領軍の引揚後、ソ聯全東亞地方は實質的にソ聯經濟内に入り、次で一九二八年、第一次五ヶ年計畫により、東亞地方も歐羅となり建設への新段階に入つた。

然し一九三二年、同五ヶ年計畫が終了するまで幾多の計畫が未遂行に終り、特に工業、農業、

運輸、商業等の実績は多くの蹉跌を生じ、全般的に見て東亞地方第一次五ヶ年計畫は未だ本格的建設の一步前にあつたのである。

東亞地方第一次五ヶ年計畫原案は次の如くであつた。

(一) 移民

八十萬五千人。]

(二) 交通

(イ) ザバイカル、ウスリー鐵道の擴充

(ロ) 延長五百八十軒の鐵道新線建設

(ハ) 年貨物取扱高十九萬噸の貿易港建設

(ニ) ウラヂオストーク、ニコラエフスク(プガチョフ)、アレクサンドロフスク、ベトロバ  
ウロフスク諸港の擴張強化

### (三) 工業

(イ) 操業中の炭礦擴充、プガチヤ、バーゾフ及び北樺太炭礦の開發

(ロ) 北樺太油田の開發

(ハ) 沿海、ハバロフスク、チタ各地方、州の發電所建設

(ニ) ザバイカル冶金工場、ウラヂオストーク造船所、アムール河造船所の建設

(ホ) ザバイカル非鐵金屬企業の創設

(ヘ) 林業の強化

(ト) ガラス、煉瓦、セメント工場の新設

(チ) ザバイカル木材化學工場、ドローニン曹達工場の新設

### (四) 農業

(イ) 農業機械類總額五千萬ルーブル及びトラクター四千五百臺の移入

(ロ) 米作の作付面積を七萬ヘクタールとし、二萬七千ヘクタールの土地を干拓、一萬七千ヘクタールの土地に灌漑を施す

### (五) 公共事業

- (イ)ウラチフスト、トク市内に上、下水道を敷き電車線路を延長する。
- (ロ)ハバロフスク市に下水道を設置する。

### (六) 社會、文化事業

- (イ)普通教育の普及を計り、同時に成人教育を行ふ。
- (ロ)綜合大學の新設。

### (七) 商業

- (イ)ウラチフスト、トク及びブラゴヴ、スチュンスク兩市に農業倉庫を新設する。
- 一九三三年より第二次五ヶ年計畫時代に入つたが、第一次五ヶ年計畫末期よりソ聯東亞地方に重大な影響ある事態が起り、これがその建設遂行に大きく響いて來た。

それは一九三一年九月、滿洲事變の勃發である。

これに依り滿洲國の誕生は日本、滿洲國對ソ聯の對立を生じ、ソ聯は急遽、對滿洲國との國境線に續々大部隊を集中し、トーチカを築き物々しき防衛陣地を布くに至り、この結果、東亞地方の第二次五ヶ年計畫は東亞地方經濟の歐露からの獨立また重工業を確立して萬一の場合、直に戦力の補充、供給をし得る態勢をとつたのである。

これより先、一九二九年、張學良政權が東支鐵道を武力回收せんと計つてソ支紛争が生じた際、ソ聯政府はブリュッセル元帥を司令官とする『東亞特別軍』を編成し、張學良軍を粉碎したが、このソ聯東亞軍が多数駐屯しはじめたのであるから第二次五ヶ年計畫の目標は軍需工業の確立にあつたに他ならない。

第二次五ヶ年計畫に於る投資額は舊東亞地方(極東地方、即ち一九二二年に生れた極東州は一九二六年に至つて極東地方(ダリネ・ヴァストーチヌイ・クライと改稱された)だけで四十億ルーブルが豫定された。

然しながら人口の稀薄に加へる大軍隊の駐屯は東亞地方の經濟を壓迫し、一般民衆の生活

は極度の困難に陥つた。

ために一九三三年十月、政府は一九三四年一月一日より向ふ十年間、東亞住民に對し穀物、野菜、肉類の國家納入義務免除、勞銀の大幅引上げを行ひ、更に四十億ルーブルを計上し合計八十億ルーブルを以て建設に當つた。

一般的に見て、東亞地方第二次五ヶ年計畫の實績は未遂行に終つたが、部分的には相當の躍進を見せた。

即ちイルクーツク州の工業生産額は一九三二年の八千三百萬ルーブルから一九三七年には二億四千五十萬ルーブルと上昇、ハバロフスク地方に於て採炭高は五倍、採油高は二倍、鐵道の貨物輸送高は三倍以上、河川運輸も同様以上、漁獲高は二倍、商業流通高は約五倍近く増加した。またブリヤート蒙古自治共和國に於てその國民經濟中、工業の占める比重は第一次五ヶ年計畫當時の十二パーセントより七十一パーセントにのぼつた。

一九三八年より一九四二年までの第三次五ヶ年計畫に於ては五ヶ年計畫當初よりの目的たる東亞地方の自給自足に向つて方向が進められ

(一) 第二次五ヶ年計畫に於る未遂行部門の建設續行。

(二) バム鐵道の建設續行。

(三) 海洋及び河川港灣の新設置及び改修。

(四) 北邊建設。

(五) アンガラストロイ綜合企業の準備的建設。

(六) 重量貨物、容積貨物の現地生産。

(七) 新鮮食糧品の自給自足。

等の諸點を主なる目標とした。

この實績は明らかでなく、遂行に當つて幾多の政治的事情の變移に災されたが、机上計畫に依ると採炭高は約三倍、セメント、石灰の採出高十倍乃至二十倍、食糧品（肉類、パン、マカロニ）にそれ／＼二倍乃至六倍に上るとされた。

然して第二次五ヶ年計畫末期より第三次五ヶ年計畫初めにかけてソ聯を吹きまくつた肅清の嵐は東亞地方にも及び政情の不安は建設計畫に幾多の影響を及ぼしたは勿論である。



一時はソ聯東亞地方の王者の如くであつたブリュッヘル元帥は一九三八年夏、張鼓峰事件當時より忽然として消息を絶ち、また黨委員會書記もラウレンチエフ、ワレイキス、クルトフ、スタツェヴィチ、ソポーレフと相次いで更替した。

一九四一年三月、モスクワで開かれた黨會議（コンフェレンツィヤ）黨大會スエズドと異なる）に於て國家計畫委員會議長ヴァズネセンスキーは第三次五ヶ年計畫終了後、新に十五ヶ年計畫を行ふ旨發表したが、幾何もなく獨ソ戦の勃發となり、ソ聯東亞地方は歐露の重要資源地帯喪失に依りウラル、クズバス綜合企業帯と共にソ聯抗戦力の臺所たらざるを得なくなり、すべては擧げて國家の要求する戦力増進に協力しつつある。

従つて平和的建設は一時預りの形となり、不急産業より戦争に直接必要な重要軍需工業に建設の重點が置かれてゐる。

また米國のソ聯援助問題もあるが、これについては別項を参照されたい。

ともあれ、ソ聯東亞地方、つまりロシア大陸の東部は、その昔流刑地とされ毛皮と金鑛の夢を結んだ時代と異り、かくも廣大な土地に自然の猛威を冒して人間社會が成立したかはロシア

人の粘り強い性格を物語り、なほ多大の將來性、發展性があり、同時に今後、幾多の問題が我々の前に提供されるは多言を要さぬところであらう。

## 六、ソ聯東亞地方産業概観

第一次五ヶ年計畫より第三次計畫までの産業建設段階に就ては別項「沿革」中に述べてあるから省略し、ここでは各産業別に概説するほか、詳細は地域別に依り解説する。

### (一) 鑛物資源と採鑛、冶金

ソ聯東亞地方は豊富な地下資源に恵れてゐる。即ち鐵、金、銀、鉛、亞鉛、マンガン、錫、ウラルホラム、モリブデン、アンチモン、水銀、クローム、ニッケル、蒼鉛等の金屬鑛物、石炭、泥炭、石油、雲母、石綿、石墨、螢石、硫黃、石膏、耐火粘土、石灰石、岩鹽、曹達等の非金屬鑛物である。

然しながら右の鑛物資源は金、石炭、石油その他若干のほかは未だ科學的調査が行はれず、自然的條件に左右されて大量採掘の域に達してゐない。

主要礦物埋藏量

	(概 數)
金	一 萬 噸
鐵	三十一億 噸
鉛	八十一萬 噸
亞 鉛	百三十八萬 噸
錫	未 詳
ヴ・ルホラム	未 詳
モリブデン	未 詳
石 炭	一千三百億 噸
石 油	三萬三九百八十萬 噸
雲 母	一千六百五十萬 噸

(二) 工 業

第二次五ヶ年計畫後、工業投資額は急増し最近では軍需工業に重點が置かれてゐる模様であ

るが、ソ聯側の投資額發表なく、その成果も詳細は未詳である。然しソ聯東亞地方の工業は歐  
露、ウラルと比ぶれば一般的に水準低く特にとりあげるほどのものはない。

(三) 農業、畜産業

沿海地方、アムール河流域地帯を除けば、氣候、風土に恵れず不振である。ソ聯當局は農業  
の自給自足を狙つてゐるが、東亞地方農業のみでは未だ自足の域に達し得ぬ現状である。

畜産業は盛んであるが、人口に比例し家畜数が少く、最近増産獎勵が各牧畜地で盛に行はれ  
てゐる。

(四) 林 業

森林面積は實に廣大で二億二千萬ヘクタールに達するが、現在製材は部分的發展を見るほか  
凡て將來に任せられてゐる。然して林業はソ聯東亞地方に於る最も有望な産業の一つである。

(五) 漁 業

世界三大漁場の一つに臨むソ聯東亞地方漁業は全ソ聯的な意義を持つ主要産業である。  
漁獲高は約三十五萬噸前後にのぼり、ソ聯第一位を占めてゐる。

## 七、地方州別による最近の産業概観

### 沿海地方

#### (一) 直轄区(舊沿海州)

### 工業

中心地はウラヂオストーク、各種兵器製造、飛行機、自動車修繕、造船、船舶修理の機械工業のほか油脂工業、魚類加工工業も盛んである。

この地域の工業は、海洋に面するため専ら海と関係ある工業が進み沃土製造、寒天製造も行はれる。

なほアルチム、スーチ、ン炭礦、チチムへ鑛山はそれ／＼所屬諸工場を有してゐる。

### 鑛業

ウラヂオストークを中心として南部地方に豊富な炭田を有する。瀝青炭のスーチン、褐炭のアルチム、タヴリチ、ンカ炭田があり、付近に多くの未開發炭田が存在する。舊オリガ區

附近地帯には鐵、鉛、亜鉛、金、銀、ヅアルホラム、マンガン等が埋藏するが、現在のところ僅にチチムへ鑛山で鉛、亜鉛の精鍊が行はれ、シナンチに錫鑛採掘が進められてゐる。

これら豊富な石炭はじめ鑛物は機械工業、造船工業を發達せしめ、多分の將來性を有してゐる。このほか石灰岩、赭土、凝灰岩、玄武岩等の建築用鑛物も産出する。

### 農業、畜産業

この地方は氣候比較的溫暖なるも平野に乏しく農業には恵れない。但し南部地帯に一部農業行はれ、穀物、馬鈴薯、蔬菜のほか大豆、亞麻等を産する。ハーサン區、シコトヅ區では米作も少々ながら行はれる。

畜産業は害蟲類多く、その發達が妨げられてゐるが、ウラヂオストーク、ハーサン、シコトヅ各區に滿洲鹿の飼養が行はれる。

### 林業

シホテアリン山脈の東側、日本海々岸に沿ひ約九百萬ヘクタールの森林(紅松、赤松、落葉松、蝦夷松、榎、檜、胡桃、菩提樹)が在り、早くから伐材が行はれたが、現在では地方の

需要を満す程度である。

### 水産業

沿海地方主産業の一つである。魚族の豊富な海域に恵れる上に港灣があり、年漁獲高は百四十萬ツェントネル前後に達してゐる。

魚類加工々業が進み、罐詰製造、鹽漬加工が盛んである。

主なる魚は鱒、鯉、鮭、鱒、鱈、蟹等で貝類、昆布の採取も擧げられる。

### (二) ウスリー州

### 工業

ウァロシローフに機械工業、製糖、油坊工業、スパスクにセメント工業が進み、カリューンスキト、シャコフスキト兩區では製材、製粉業が盛んである。

ウァロシローフはウラヂオストークと並んでソ聯東亞地方東部の重要軍需工業地で兵器の製造、修繕を主目的とする機械工業が行はれ、スパスクにはソ聯東亞地方第一といはれる大セメント工場がある。蓋し同市付近には豊富な石灰岩が産出するからである。

レソザヴァードスク、イマンの兩地は水陸交通の便に依つて製材工業が行はれてゐる。

### 鑛業

ウスリー州の北部ビキン、イマン兩河流域は有名な産金地帯で、ノヴァボタロフスコエをその中心としてゐる。

このほか全州一帯に多くの埋藏地下資源を持ち、前述のスパスク付近に於る石灰岩、グロデコヴァ區の含鐵珪岩、埋藏量三十萬噸の小磁鐵鑛、アタマノフスコエ、グロデコヴァ兩地間に銀鉛鑛床が埋藏する。

南部方面には埋藏量二千萬噸といはれるオシノフカ褐炭鑛はじめ多くの石炭鑛があるが、未だ一部しか採炭されてゐない。モロトフ、ウァロシローフ兩區の大炭田も未開發で、若しこれが大規模に採炭されればウスリー州のみならず直轄區にも供給され重工業を發達せしめる可能性があると觀測されてゐる。

なほウスリー州の西部、シホテアリン山脈の西斜面の帶狀地帯には無煙炭、瀝青炭が埋藏するといはれる。

## 農業、畜産業

アムール州のゼーヤ・ブレイヤ平原と並んでウスリー河流域、興凱湖畔、綏芬河流域はソ聯東亞地方に於る重要な農業中心地である。

總播種面積の八十パーセントは小麥、燕麥が占め、次で大豆、亞麻、向日葵、甜菜、煙草等の栽培が行はれる。

一九三七年秋、この地方で米作に當つてゐた朝鮮人が強制的に中亞方面へ移住せしめられて以來、米作は激減したが、いまなほ最適の米作地帯とされ興凱湖スンガチ、河付近のみで米作適地十萬ヘクタールと稱せられる。

この地方農業の特徴は農業機械の使用率が極めて高く、人手不足を補つてゐる。然し技術的に未だ怠るため農産物生産は到底需要を満すに至つてゐない現状である。

畜産は農業の副業として行はれ、一九三八年一月現在の家畜頭數は馬匹四萬八千頭、牛十萬七千頭、豚十二萬九千匹、羊二萬三千頭であつた。

なほカリーニン區、スバスク區、シヤコフカ區の森林中で養蜂業が盛んである。

## 林業

大森林に恵まれ、その面積百萬ヘクタールと稱せられ、紅松、蝦夷松、樺、楡、やまなし等がある。ために林業は最も盛んで搬出量は百萬立方メートルを超へてゐる。

昔からこの森林は掠奪的伐材が續けられるため當局は六ヶ所の營林所を置き保護に當つてをり、ウスリー州の林業は將來頗る有望である。

### ハバロフスク地方直轄區

## 工業

ハバロフスク、コムソモールスク兩市を中心として重工業が行はれ兵器製造、各種機械製造、建築材料製造が盛んである。就中、ハバロフスク工業地帯はソ聯東亞地方工業地帯の大中心地で、ソ聯東亞軍の物的基礎を演じてゐるのである。

このほかホトル、ビキン兩市に製材業が行はれる。(アムール製鋼所に就ては次章参照)

## 鑛業

ハバロフスク、コムソモールスク兩市工業帯に供給する地下資源は比較的乏しく、僅か一部

石炭礦が開發されてゐるに過ぎない。

然し埋藏量は多く石炭は一億五千二百萬噸と見積られてゐる。

またハバロフスクの付近に煉瓦用粘土、砂、花崗岩、ピキン、ヴァーゼムスカヤ兩區に砂金（これは最近相當に採取されてゐる）、クルウルミ區にマンガンの埋藏がある。

なほコムソモリスクのアムールスタリ（アムール製鋼所）は第二次五ヶ年計畫より建設され、各種製鋼機械の据付けを終り、一部操業が開始されてゐる。

#### 農業、畜産業

氣候的條件に依つて農業は餘り發達してない。然しピキンを中心として大豆、穀物地帯、ホル付近に小麦、燕麥、ハバロフスク市付近、ホールよりヴァーゼムまでの鐵道沿線に蔬菜、果樹、酪乳地帯がある。

畜産業は盛んで、これが擴充に當局は銳意努力を集中してゐる。

一九四二年に於るハバロフスク地方（直轄區はじめ各州を含む）の畜産計畫は地方黨委員會並に黨ハバロフスク地方委員會の決定に依ると次の通りである。

(一) コルホーズに於る牛總頭數は一九四二年一月一日現在の七萬六百八十頭から一九四三年一月一日までに八萬頭とする。

(二) ソフホーズに於る牛は一九四三年一月一日までに一萬四千餘頭とする。

(三) 綿羊は一九四二年現在の三萬四百九十頭より一九四三年一月一日までに三萬九千頭とする。

(四) 豚は一九四二年現在二萬八千二百頭から一九四三年一月一日までに四萬四千頭とする。

(五) 馬は一九四三年一月一日までに四萬八千頭に達せしむ。

蓋しハバロフスク地方には畜産に適した牧草地が多いからである。

直轄區の農業機械使用は高率でトラクター・ステーションは五ヶ所、約トラクター三千臺を有してゐる。

#### 林業

豊富な森林地帯があり、立木蓄積量は五十億立方メートルといふ莫大なものである。

平伐材計畫は五十萬立方メートル乃至百萬立方メートル、各地に製材所がある。

同時にハバロフスク、コムソモールリスク、オポールに挽材工場、コムソモールリスクにパルプ製紙コンビナート、ハバロフスクに家具製造工場がある。

#### 水産業

アムール河を對象とする漁業が行はれ、鮭、鱒、また鯉、アムール鮎等の淡水魚が捕獲される。

漁獲高は年一萬噸乃至二萬噸にのぼり、加工されて送り出される。この地方のチロプロエ、オーゼロは一年中、凍結せず鮭、鱒の産卵地として有名である。ここで人工受精された鮭卵はムルマンスタ、アルハンゲリスク方面に送られ養殖される。

#### ユダヤ自治州

#### 工業

製材、石灰工業が行はれる以外、重工業は見るとべきものはないが、砂金、鐵、石炭等の鑛物資源に恵れるので各地に續々各種工場が建設され將來性を持つてゐる。

製材工業はイン河、トゥングース河の木材を以てスミドヴィチ、ニコラエフカで行はれ、ロ

ンドゴ、ピラカン、キムカンでは石灰工業が盛んである。

#### 鑛業

總埋藏量二十億噸と稱せられる鐵鑛がある。

これは小興安嶺山脈の南北各地に散在し、ソ聯東亞地方有数の鐵鑛地帯を形成してゐる。

その北部鑛區の中心はピラ及びビジャン兩河上流、南部鑛區はサジラ河流域である。

またピラ河上流一帯には砂金、山金が採取されソ聯東亞地方十五産金地の一つである。

石炭、石灰、石綿、大理石もピラ河上流にあり、アムール河、イン河中間低地帯に泥炭、ヴ

ロチ、エフカ付近にマンガン埋藏がある。

#### 農業、畜産業

濕地帯が多いため農業は進まず、ただアムール河沿岸に少々の農業地帯を見る。

ウスリー州と同じく嘗て強制移住前の朝鮮人が米作に當り一ヘクタール當り約五百ツェントネルの收穫を擧げたが、その後、米作は自然途絶へてしまった。

但し大豆栽培が近年奨励され、年々その收穫高は増加してゐる。

畜産業は専ら放牧であるが、その詳細は前章ハバロフスク地方の畜産業中に含まれてゐるから、こゝでは記述しない。

### アムール州

#### 工業

中心地はブラゴヴェシチンスク市で造船(小型河川船舶)、機械その他軽工業が行はれる。武器類の製造はハバロフスク、ウラチオストークに比べ極めて少量と見られる。

ザヴィータヤ、スヴァポードヌイ、クイブイシエフカ等のアムール鐵道沿線各地では、機關車、貨車、自動車、トラクター、發電所等の修繕工場、煉瓦製造、製材、ビール、製粉、家具製造、製革製靴の諸工場があるが、これらは何れも地方的小規模工場に過ぎない。

#### 鑛業

ソ聯東亞地方第二の採炭高を見せるキウドライチハ褐炭田を中心としてブレーヤ、ゼーヤ、セレムジャの三河流域に鑛山がある。

ブレーヤ河中上流にかけて埋藏量二百六十億匁と稱される有名なブレーヤ炭田があるが、交

通不便のため開發は進まず、今後に俟つところ多い。

またブレーヤ河上流には豊富なモリブデン鑛があり、そのうちウマリタ鑛床はソ聯第一といはれ、目下開發中である。

セレムジャ河流域には金、ヴァルフラム、アンチモニー、水銀の大鑛床が発見されたが、金以外に開發は行はれてゐない。

#### 農業、畜産業

ゼーヤ、ブレーヤ平原はソ聯東亞地方の穀倉と稱され、播種面積は年々擴張されてゐる。

農産物の主なるものは小麦をはじめ大豆、亞麻、大麻、向日葵、煙草、甜菜等である。然し小麦、大豆の栽培がその大宗をなしてゐる。

畜産業も盛んであるが、人口に比し家畜頭數は著しく少い(直轄區、畜産業の項参照)

#### 林業

廣大な未開發大森林地帯を有してゐる。針葉樹が多いが、未だ手をつけられず、ただ地方住民の燃料用にのみ供され、大製材工業は行はれない。



## サハリン州

### 工業

大規模工業は行はれず、局地的な小範圍工業——發電所、トラクター、自動車、船舶修繕、建築、食料品工業部門があるにとどまる。

### 鑛業

石炭、石油に恵れ、ソ聯東亞經濟に占める地位は大きい。わが日本の石油、石炭利権もあるが、ソ聯側の度重なる壓迫によつて殆んど操業不能の状態にあるは周知の事實であろう。

石油は東海岸、石炭は西海岸に集り、石油については一九三九年現在、ソ聯側は四十七萬疋日本側は十五萬疋であつた。

石炭の總埋藏量は三十億疋と見積られるが、一九四〇年の採炭高は五十萬疋を示した。

このほかポロナイ(幌内)河流域に砂金、アレクサンドロフスク付近に鐵鑛、粘土を産する。

### 農業、畜産業

氣候峻烈のため農業は微々たるものである。ソ聯當局は近年耐寒用穀物の品種研究を行つて

ゐるが未だ見るべき成果はない。

これに比して畜産業は相當盛んで一九三八年一月一日現在馬約五千六百頭、牛約六千頭、豚約十萬匹等を數へた。

### 林業

諸所に大森林を有するが、交通未發達に依り未開發状態にある。その立木蓄積量は五百六十萬立方メートルといはれる。

### 水産業

豊富な漁場を控へ年々その漁獲高は増加してゐる。西海岸が盛んで總漁獲高は四十萬ツ、ントネルを超へる。

### ニジネ・アムール州

### 工業

一般的に不振である。海に面するため、海洋關係の小規模工業(船舶修繕、魚類罐詰、加工\*業)が行はれるほか、ニコラエフスク(ブガチョフ)に地方住民の消費を對照とする若干の輕

工業が行はれる。

### 鑛業

オホーツク河に注ぐ諸河川は多くの産金地帯である。ソ聯重要産金地十五ヶ所のうち、五ヶ所まで、この州にある。

ニコラエフスク付近の褐鐵鑛は埋藏量一千五百五十萬噸で、コムソモールスクのアムール製鋼所の供給地である。ウドゥイリ湖畔にはヴォルフラム、アンチモニー、錫、砒素、アヤン灣付近には鉛、亜鉛、銅等を埋藏してゐる。

なほアヤン灣付近に最近石油地帯が発見され、試掘が續けられてゐる。

### 林業

廣大な森林地帯を有するものの未だ未調査、未開發、状態にあり、詳細は窺知し得ない。

### 水産業

オホーツク海の大漁場に接し鮭、鱒、鯡の漁獲高は約五十萬ツェントネルにのぼる。この地方はカムチャッカと並んでソ聯東亞地方に於る重要食糧品供給地と言つても過言でない。

## カムチャツカ州

### 水産業

世界三大漁場の一つと稱され、鮭、鱒、鯡、鱈、蟹、海豹、海驢に富む。

漁獲高は増加の一途を辿り（獨ソ戦後は一時減少の模様）、一九三九年には百六萬ツェントネルに達してゐる。この漁獲物は近年、専ら加工され歐露方面へどしどし送り出されてゐる。

### 鑛業

石炭、泥炭、非鐵金屬を尨大に埋藏するが、最近一部開發されたのみで、他は放置されてゐる。カムチャッカ開發會社「アコ」が東岸のゴルフ、アナドゥイル附近炭田を開發中である。カムチャッカの石炭埋藏量は約三十億噸と見積られてゐる。

工業、農業、畜産等は殆んど見るべきものなく、ただベトロパウロフスクほか漁業基地に船舶修理、魚類加工々業が行はれる。

## チタ州

### 工業

機械工業、製材、食糧品加工、畜産加工工業が行はれ、機械工業のうちチタには銃砲工場、スレチェンスクに造船工場、ダラスンその他の工場に鑛山機械修繕工場がある。鐵道沿線には機關車、貨車修理工場、またゼーヤ區、スレチェンスク區、モゴチヤ區その他の森林地帯中心地に製材工業が行はれる。

### 鑛業

ソ聯東亞地方のみならず、全ソ聯のうちでも有数の鑛産地である。各種金屬、特有金屬が埋藏され鐵、石炭、螢石をも産する。

その主なる産地を挙げれば次の通り。

金Ⅱアムール河上流オノン河ネルチャ河はじめ各河川流域及びバレイ、ダラスン兩コンビナート地帯を主要産金地とする。

鐵Ⅱ埋藏量一億噸以上と稱され、産地としてはバリヤガ鑛床が有名でベトロフスク製鋼所に供給する。

錫Ⅱ全ソ産額の殆んど全部がチタ州から産出される。その産額は約五千噸前後で三大機械化

錫コンビナートたるバプチュランカ、シルローヴァヤ・ガラー、オノンオロヴァンナヤが採取に當つてゐる。このほかクライ區のソホンド、クラスノチコイ區のニジネロフカ、シルカ區のザヴィタヤ等に錫鑛床がある。

稀有金屬Ⅱチタ州はソ聯に於るヴァルフラムの主要産地で主な鑛床はアントノヴァガラー・ブクカ、ペルーハ、克蘭ジヤ等である。またモリブデンも多くクラスノチコイ區のグライ鑛床で採掘され、砒素はアルガチ鑛山（アレクサンドロフスキー・ザヴァード區）で専ら採取、ソ聯各地に供給される。

螢石Ⅱボルジヤ區で採掘され、その額は全ソ産額の八〇パーセント乃至八五パーセントに達する。

石炭Ⅱ豊富な石炭埋藏地帯があるが、その多くは未開發である。

### 農業、畜産業

一般に農業は振はず、部分的に局部的穀物栽培が行はれるに過ぎない。然し畜産業はブリート蒙古自治共和國と共にソ聯有数の畜産地帯で、コルホーズ一農戶當りの家畜数は平均二十

二頭にのぼりソ聯第一位を占めてゐる。これと共に畜産加工業が盛んである。

## 林業

廣大な森林地帯を持ち、チタ州總面積の四十パーセント餘は森林に蔽はれてゐる。樹種は落葉松、赤松、紅松、蝦夷松、樺等で、最近の年伐材高は約七、八百萬立方メートルに達する。

### ブリヤート蒙古

## 工業

専ら輕工業で畜産加工業、製材、魚類加工業が行はれる。畜産が盛んなため、チコイに大皮革工場を有するほか中南部に多數のバター製造工場が散在する。

またブリヤート蒙古の中部は森林ステツプ地帯と呼ばれるほど森林資源に富みウダ河、セレンガ河各流域に製材工業が盛んである。

魚類加工業はバイカル湖畔の各地に行はれる。

## 鑛業

金、錫、ヴォルフラム、鐵、石炭、黒鉛、石棉等の埋藏を見るが、僅にヴォルフ

ラム、金、石炭のみ開發されてゐる。

なほジダ地帯のヴォルフラム鑛床は全ソ・ヴォルフラム埋藏量の六十パーセントに達する。

## 農業、畜産業

平野狭少、降雨量少く農業には適さない。然し牧畜を唯一の生業とする蒙古人が多いことに依り畜産業は盛んで、一九三八年一月現在、馬十二萬頭、牛三十八萬頭、豚六萬八千頭、綿羊三十六萬頭、山羊八萬三千頭を數へてゐる。

## 林業

森林面積は二千八百八十萬ヘクタールといふ廣大なもので、殊に北部地帯に集中されてゐる。主なる樹種は赤松、落葉松、紅松、蝦夷松、樺松、白樺、やまならし等で年伐材高は百五十萬立方メートルである。

## 鐵道運輸

ソ聯東亞の鐵道運輸は最近ますますその重要性を増加してゐる。從來、五ヶ年計畫の進展と

東亞情勢の變移に對應してソ聯東亞地方の鐵道は建設と國防の兩面に亘り建設、擴張されて來たが、獨ソ戰爭勃發後は後方基地としての東亞地方が重視され、鐵道は擧げて物的抗戰力の基礎となる物資搬送に獨占されてゐる。また國際連絡路であつたシベリヤ鐵道が殆んど途絶するに至り、同時に各沿線の旅客運輸を著しく制限し、一九四三年前半期に於ては旅客列車運行を週一回、乃至十日に一回或はそれ以上に制限し、貨物列車の運行に重點を置いてゐる。

然してソ聯東亞地方の建設、發展が遠く歐露と離れる結果、自然、鐵道運輸の重要性が大きな影響を齎し、これに依つて左右されることは従前と變りなく、地域の廣大さ、降雪、嚴寒等の自然的條件、また技術的欠陥は事實においてソ聯東亞經營の惱の種、弱點とされてゐる。

これを補ふためソ聯政府は一九四三年（昭和十八年）三月、全鐵道を戒嚴令下に置き重點運輸を計り、また獨ソ戰勃發の一年前から開始された少年鐵道員養成學校、或は戰後、開始された女子鐵道勤務員の大量養成を行ひ男子の戰線行きに基く能率、操業の低下を防ぐに大重はである。

鐵道は特に戰時機密に屬するため最近のソ聯東亞地方鐵道狀況は些か未詳であるが、全鐵道

總延長數は約五千二百キロと見られ、次の四鐵道局に管理されてゐる。

(一)沿海鐵道 (ウラヂャストークロシロフリスバスクロイマンングペロヴァ間) 九百六十千。局所在地ウ、ロシロフ・ウスリースキー

(二)東亞鐵道 (グペロヴァビキンハバロフスクロビジャンアルハラ間、及びヴロヂャエフカロコムソモリスク間) 一千一百五十一千。局所在地 ハバロフスク。

(三)アムール鐵道 (アルハラスヴァボードヌイモゴチャクセニエフスカヤ間) 一千五百三十二千。局所在地 スヴァボードヌイ。

(四)モロトフ鐵道 (クセニエフスカヤスコヴロヂノリチタロベトロフスキー・ザヴァド、及びオトポールリチタ間) 一千五百三十千。局所在 チタ。

従來、ソ聯東亞地方の鐵道はザバイカル鐵道、ウスリー鐵道の二鐵道局に管理されてゐたが一九三六年以降、四鐵道局に分割、管理され大體約三百千毎に運輸事務所が設けられた。

### 鐵道網

鐵道網密度は至つて低く地域一千平方千當り約一千一百米（一・一千）であり、開戦前の全

ソ鐵道延長數の約五・九パーセントに當る。

一八九〇年代、初めて東亞地方に鐵道建設が行はれ爾來所謂シベリヤ鐵道を中心に支線が生れ今日では大小合せて十三、四本の短距離支線を以て鐵道網を構成してゐる。その主なる支線は次の通り

- (一) ハバロフスク支線(ヴ・ロチヤエフカ||コムソモリス間) 三百八十七軒。
- (二) 滿洲里支線(オトポール||オロヴァンナヤ||カルイムスカヤ) 三百七十七軒。  
註||オトポールは滿洲里驛に對するソ聯側の待避驛で實際上は郵便、一部旅客連絡のためソ聯側は主として輕便車を使ひ滿洲里驛まで連絡する。カルイムスカヤ驛はチタの東方、シベリヤ鐵道本線との分岐點。
- (三) キヤフタ支線(ウラン・ウデ||キヤフタ間) 二百四十七軒。
- (四) スーチャン炭坑支線(ウーゴリナヤ||ナホドカ間) 七十一軒。
- (五) 興凱湖支線(ウ・ロシロフ||ツウリログ間) 百二十七軒。
- (六) 芬河支線(ウ・ロシロフ||ボグラニチナヤ間)。

(七) フラゴヴェスチェンスク支線(スコヴァ・ロジノ||ブラゴヴェスチェンスク間) 百九軒。

然して幹線たるシベリヤ鐵道は革命前にカルイムスカヤ以西まで復線化されてゐたが、ソ聯誕生後もカルイムスカヤ・ウラヂヌストーク間は暫く單線であつた。滿洲事變勃發の翌年ソ聯當局は急遽、同區間の復線化を開始し一九三七年末にはハバロフスクまで完成、更に獨ソ戰勃發までにはハバロフスク・ウラヂヌ間も工事完成するに至つた。

なほわが南樺太對岸のソヴェートスカヤ・ガワニ(ソフガワニ)よりコムソモリスを経てバイカル湖の北部を廻り東部シベリヤ鐵道のタイシヤトを結ぶ全長四千軒のバム鐵道(バイカル・アムール鐵道)は西方より建設が進められてをり、約八百軒乃至一千軒完成したと見られるが、その詳細はソ聯側が口を緘するため窺知し得ない。

## 水 運

河川運輸、海上運輸とも擴充途上にあつて未だ満足すべき域には達してゐない。東亞地方の開発、建設には河川、海上運輸に俟つところは大きく、鐵道の弱少を補はねばならぬのでソ聯當局は近年、水運に異常な關心を拂つてゐる。河川運輸は東亞地方を流れる各大河、海上運輸

は北氷洋利用に依る連絡が計られてゐるが、冬期凍結するため水運の擴充、利用は相當の制限を餘儀なくされてゐる。

**河川運輸** イルクーツク以東には、ソ聯邦第一の大河レナ河をはじめアングラ河、セレンガ河、アムール河、コルイマ河、インヂギルカ河等の主要河川及びバイカル湖があり、それら小船舶に依る運輸交通が行はれてゐる。

(一)アムール河 アムール河本流は滿洲國の北東方に當るシルカ河との合流點以東で船舶航行が行はれる。同航行區を二分してヴェールフネ・アムール(上アムール)船舶局、ニジネ・アムール(下アムール)船舶局の管理下に置かれたが、一九四〇年にはアムール河口のニコラエフスクに船舶局が新に設けられた。

(二)アングラ河 バイカル湖より發するアングラ河は延長一千八百八十五軒、プラトスクでオカ河と合し、イルクーツク・プラトスク間に定期船が動いてゐる。航行期間は年平均百七十日である。

(三)セレンガ河 ブリヤート蒙古と外蒙古を結ぶセレンガ船舶局(局所在地ウラン・ウデ)

下にあつて、年平均の航行期間は百七十日前後である。諸所に砂洲多し。近年セレンガ河及びその小支流の開發が行はれてゐる。

(四)レナ河 北氷洋に注ぐためヤクーツク以北を北洋航路總局が管理し、東亞地方に屬する上流は水深淺く船舶航行に適さない。極く平底の浮舟により運輸が行はれ、然もその使用期間は年百日乃至百三十日に過ぎない。

(五)コルイマ河 オホーツク海に注ぐコルイマ河の可航區間はアヤンウリヤコフ以下の二千四百軒で可航期間は平均百日乃至百三十日である。最近ソ聯當局はコルイマ河の開發を計り良灣ナガエヴの利用に努めてゐるといはれる。

(六)バイカル湖 可航期間は年平均百五十日、東部シベリヤ船舶局(局所在地チタ)に屬し同湖に出入する諸河川と連絡して運輸に當つてゐる。

## 海 運

日本海、オホーツク海、ベering海を通じ外海の太平洋、北氷洋と連結し得る立場にあるが、ソ聯東亞の海運は未だ不振状態を脱しきれない。獨ソ戦後、米國からの援助物資を移入す

るため、ウラヂャストークを中心としてソ聯東亞海運は一時大いに殷盛を見せたが、大東亞戦に依り多少の制限を蒙つた。

然しソ聯東亞海運が依然として不振であることは港灣設備の不完全、船舶不足、老朽船使用に依る船腹不足、配船率低下、荷役組織、設備の不完全等に基因し、これらの諸點に就き種々の向上策が講じられ造船所、船舶修理場、新港灣の建設が逐次行はれてゐる。

海運輸送量は一九二八年當時、二百七十九萬五千噸であつたが、一九三五年には百六十九萬六千噸と減少、その後再び上昇してゐるが、最近の輸送量は不明である。

一九四二年(昭和十七年)、ソ聯紙の報ずるところに依るとソ聯東亞地方の港灣は南部より北方に亘り次の如き諸港が擧げられてゐる。

ボシニツト、ウラヂャストーク、オリガ、ソヴェートスカヤ・ガワリーニ、アレクサンドロフスク、ニコラエフスク(プガチョフ)、アヤン、オホーツク、ナガエヅオ、ベトロバフロフスク、ウスチ・カムチャートスク。アナドウイリ、チュ・コトスカヤ・クリトバーザ、アンボルチー。

この等諸港中、ウラヂャストークが最大港で近海、遠洋兩航路の中心地となり、名實共にソ

聯邦の東支關となつてゐる。次いでベトロバウロフスク、ニコラエフスク(プガチョフ)であるが、第三次五ヶ年計畫後はソフガワニ、ナガエヅオ灣が擴張されてゐる。

### 道 路

ソ聯東亞の道路は鐵道と同様に近年着々建設されてゐるもの、その廣大な面積に比すれば未だ微々たるものである。帝政時代から殆んど道路らしき道路なく僅に一部の郵便路しか存在せず、加へて前大戦と國內戦の約十年間、全く荒れ果てる儘に置かれ、新建設に依つて漸く硬質舗装道路の開通を見るに至つた。

一九三八年初頭に於る東亞地方の硬質舗装道路延長軒数は次の如くである。

(一)沿海、ハバロフスク地方 三千九十六軒(全ソ聯硬質道路の四・一四パーセント)。

(二)チタ州、イルクーツク州 二千八百三十八軒(全ソ聯の三・七九パーセント)。

(三)フリヤート蒙古 三百軒(全ソ聯の〇・四〇パーセント)。

主要道路は次の通り(一九四〇年現在)。

(一)ウラヂャストークハバロフスク間 七百五十軒。



- (二) ウラチオストーク・ブチャ・チン・オリガ・チ・ヘ間 約四百八十軒。
- (三) ハバロフスク・コムソモール・スク間 三百八十七軒。
- (四) プレーヤ・ブラゴヴ・スチ・ensk・スバヴ・ドヌイ間 約三百四十軒。
- (五) スコヴ・ロジノ・ナゴルヌイ間 約二百軒(本道路は大道路である)。
- (六) チタ・アクシヤ間 三百五軒。
- (七) チタ・ロマノフスコエ・ゾールフネ・アングルスク間 約三百六十軒。
- (七) イルクーツク・カチュ・グ間 二百六十五軒。
- (八) イルクーツク・ジガロヴ・間 四百一軒。
- (九) ウラン・ウデリキヤ・フタ間 二百三十四軒。
- (十) リストヴ・ヤンカ・イルクーツク・ペールイ・マムイル間 五百七十軒。
- (十一) イルクーツク・クチュ・ガ・ジガロヴ・ウスチ・クート間 約六百軒。

#### 自動車運輸

道路の未發展、不良、ガソリン、ゴムタイヤの不足に起因し自動車運輸率は低い。然し自動

車数は五ヶ計畫により逐次増加し、人口稀薄のため住民平均六十五人に自動車一臺の相當高い比率を示してゐる。一九四〇年初頭の東亞地方自動車数は約七萬五千五百臺、そのうち乗用車八千五百臺、トラック六千五百臺、バス六百臺、その他一千六百八十臺となつてゐる。

將來、道路網の發展に伴ひ自動車運輸は鐵道網を補ふため大擴充を見るであらう。但し北樺太の石油以外、コーカサス、第二ベクター方面よりガソリンの供給を仰ぐため、これが輸送難に妨げられガソリン不足を招來することは豫想されてゐる。

#### 航空路

獨ソ戦後、ソ聯東亞地方の航空路は極めて重要な地位を占めるに至つた。即ち可及的速な東亞地方資源のウラル、歐露方面輸送を第一とすると共に米國との連絡路に當る譯であるから、ソ聯當局も各根據地、連絡地整備に大童はである。これは單にソ聯一國內の重要事ばかりでなく、重慶・ソ聯東亞・アラスカ・カナダ・米本土間の航空連絡は、我々の大いに注目を惹くところである。

一九三〇年頃より東亞地方の航空路はその緒につき爾來、東亞建設と平行して發展、一九三

八年現在で航空路總延長は七千九百軒に達した。(一九三〇年二二千五十軒、一九三七年六千七百軒)。第三次五ヶ年計畫に於る航空路總延長は三萬二百七十二軒と豫定され一九三八年當時の實に四倍半を目標としたが、その後の擴張實況はソ聯側の發表なく窺知し得ない。

主なる航空路は次の通り

(イ) 定期航空路

- (一)ウラヂフストーク||ハバロフスク||イルクーツク||ノヴ・シビリスク||モスクワ(八千九百九十軒)
- (二)ハバロフスク||オハ(一千百三十軒)
- (三)ハバロフスク||ニコラエフスク(プガチョフ)(九百二十軒)
- (四)ハバロフスク||ナガエヅ\*(二千二百十二軒)
- (五)ハバロフスク||アレクサンドロフスク(九百二十軒)
- (六)イルクーツク||ヤクーツク(二千七百六軒)
- (七)イルクーツク||ボダイボ

- (八)チタ||バウント
- (九)シヤ||リンド||ネザメトヌイ

(ロ) 不定期航空路

- (一)ハバロフスク||ボダイボ
- (二)ナガエヅ\*||ニジネ・コルムイスク
- (三)オハ||ウエーレン
- (四)オハ||カムチャッカ
- (五)オハ||ナガエヅ\*

このほか多數の不定期航空路及び北氷洋方面との新航空路連絡が計られてゐるが詳細不明である。

## 八、社會文化

ソ聯邦の社會文化施設は教育、醫療、生活保障の三部門より成り、東亞地方もこの三部門が

建設に従ひ展開されてゐる。

### 教育施設

歐露地方と異り、帝政時代より邊境地方として等閑視され、ソ聯誕生後も第一に建設、第二に建設と此方面に重點が置かれた結果、教育施設は今日に至るも完備の域には達してゐない。一般に就學率も悪く、教師の不足及びその質の劣悪もあり、更に學校建設の遲怠、備品、學用品の不足に災されてゐる。交通不便に基因するが東亞地方北部方面には殊に如上の例が尠くない。

そして教育適齡の兒童を除き、一般の成年男女中には未だ文盲、半文盲が多數存在し教育程度は極めて低い。

第三次五ヶ年計畫當初よりソ聯當局は東亞地方の教育施設發展に意を注ぎ、各地に續々學校を設立してゐるが、人口に比例して未だ不足の状態にある。

△各地方、州別による初等學校、甲乙中等學校數は次の通り(一九三九年現在)

沿海地方	ハバロフスク地方	チタ州	イルクーツク州	ブリヤート蒙古	沿海地方	ハバロフスク地方	チタ州	イルクーツク州	ブリヤート蒙古
初等學校	五三七	九七六	一、三二〇	四二二	初等學校	五三七	九七六	一、三二〇	四二二
甲種中等學校	七二	八三	八三	四一	甲種中等學校	七二	八三	八三	四一
乙種中等學校	一五四	一五一	一六三	七九	乙種中等學校	一五四	一五一	一六三	七九
合 計	七六六	一、六七七	一、五七五	五三四	合 計	七六六	一、六七七	一、五七五	五三四
學校總數	二二	四〇	一六	三四	學校總數	二二	四〇	一六	三四

右内譯

工業建築關係	三	五	三	一
運輸通信關係	一	四	一	一
農業關係	二	四	二	二
社會經濟關係	一	一	三	一
教育關係	四	一	七	三
藝術關係	一	一	二	一
保健關係	一〇	一五	一六	四

勞働豫備軍關係學校

ソ聯は一九四〇年十月二日、最高會議幹部會令を以て勞働力確保のため年齢十四歳から十七歳までの少年を徵用し、これを新に設立した職業學校、鐵道學校、職業實習學校に入學せしめることとした。職業學校は二ヶ年終了、金屬、化學、鑛山、石油等の熟練勞働者を養成、鐵道學校は二ヶ年終了で鐵道勤務員を作り、職業實習學校は石炭、鑛山、石油、金屬、建築等の大衆的専門勞働者の養成を計るもので東亞地方に於ける割當率は左表の如くであつた。

沿海地方	職業學校	鐵道學校	職業實習學校
ハバロフスク地方	八〇〇	三〇〇	四、〇〇〇
チタ州	五五〇	四五〇	四、〇〇〇
イルクーツク州	八〇〇	四〇〇	一、〇〇〇
ブリヤート蒙古	一、二〇〇	四〇〇	三、〇〇〇
	六〇〇	二八〇	六〇〇

然して獨ソ戰後、この勞働豫備軍組織は全ソ聯に亘り擴充、強化され物的抗戰力展開の重要因子を成すに至つてゐる。

高等教育機關

從來、各高等教育機關の入學資格は男女共、年齢十七歳以上三十五歳までの甲乙中等學校卒業者、中等専門學校修了者とされてゐるか、東亞地方の高等教育機關は歐露方面と比べて微々たるものである。

(一)沿海地方 國立大學一(ウラチオストーク)、工業専門學校一、高等師範學校一、計四校

- (一) ハバロフスク地方 高等師範學校三、普通師範學校二、保健専門學校一、計六校。
- (二) チタ州 普通師範學校一。
- (三) イルクーツク州 國立大學一(イルクーツク)、高等師範學校一、普通師範學校一、工業専門學校一、農業専門學校一、經濟専門學校一、保健専門學校二、計九校。
- (四) プリヤート蒙古、共和國國立大學一(ウラン・ウヂ)、高等師範學校一、普通師範學校一、農業専門學校一、計五校。

このほか七歳から八歳までの修業年限一ケ年の豫備學校、また三歳乃至七歳までの幼兒を收容する幼稚園が各地にある。

### 文化施設

一般民衆の社會教育を行ふため各地に文化施設が設けられてゐる。政府の政策、黨の諸方策戦争遂行に關する増産運動、愛國心昂揚運動は凡て各社會教育の文化施設(學校を除く)を通じて行はれ、その機關は強力な宣傳網を有してゐる。殊に東亞地方は歐露と遠隔の地にありまた人口中心から速い部落が存在するので民衆の慰安機關を兼ねて俱樂部組織が發達してゐる。

昭和十八年九月十日印刷  
昭和十八年九月十五日發行

『東亞ソ領の現状』 卅五 錢  
(10,000部)

出版會承認イ210211號

著者 歐亞通信社  
東京都麹町區丸の内三ノ二  
三益廿一號館

發行者 上田 森 治  
東京都芝區田村町三ノ七

印刷者 辰 雄

發行所 東京都麹町區丸の内三ノ二  
三益廿一號館  
株式會社 歐亞通信社  
電話丸の内(三)四六四五番  
振替東京四三〇一五番

配給元 東京都神田區淡路町  
二丁目 日本出版配給株式會社

438  
241

歐亞通信社編	歐亞通信社編	佐藤 貢著	歐亞通信社編	歐亞通信社編	上野浩一著	歐亞通信編
日露年鑑 昭和八年版十	日露年鑑 昭和七年版十	濠洲及新西蘭の農畜産業	第二戰線を衝く	歐洲戰局の推移	樞軸必勝の布陣	反樞軸の内訌
A 5 1100頁	A 5 1100頁	A 5 280頁	B 6 300頁	B 6 300頁	B 6 312頁	A 5 310頁
定 價 12.00	定 價 12.00	定 價 3.50	定 價 2.00	定 價 2.00	定 價 2.00	定 價 2.50
昭和十八年版の編輯を終つた。今年は全文書き下し読み易いものにした。	本社の年鑑は十年の歴史を有つてゐる。ソ聯研究の權威書である。	著者が専門眼を以つて視察踏査せる濠洲及新西蘭の農畜産業の實情に新資料を加へて著述せるもの。	今や第二戰線問題が世界話題の中心となつて來た。大東亞戦争と一體不離の問題を衝く。	最近に於ける北阿戰線、東部戰線の推移を新聞に出ぬ資料によつて詳述せるもの。	新聞に於ける北阿戰線、東部戰線の推移を新聞に出ぬ資料によつて詳述せるもの。	本書は最新海外情報を以つて反樞軸の内訌を究明したるもので決戦時下の好讀物。

歐亞通信社編 (最新刊)

# ソ聯現勢解説

戦ふソ聯の全貌を政治、外交、歴史、國防、經濟、文化の各部門に分ちて平易に解説せるもので、特に我が國と關係深き東亞ソ領に重點を置いた。獨ソ戰第三年のソ聯の相貌を知ことは我々の必須事である。ソ聯關係編著に多年の經驗ある本社の著述として江湖に薦む。

A 5判 三六〇頁  
九ボ三段密組  
定價 三圓二十錢

歐亞通信社編 (最新刊)

# 獨ソ決戰の背景

歐米の情報を豊富に蒐集し得る立場にある。筆者が新聞に出ない獨ソ決戰の、軍事的、政治的、經濟的、社會的實相を凡ゆる觀點より解剖、論及してゐる。獨ソ兩國の戰略戰から説き起して、龍虎死闘する東部戰線の背景たる、歐大陸の戦力、米英の對ソ方略、戰の底流等、歐米の凡ゆる情報を蒐集してゐる。獨ソ戰を究める格好の書である。

B 6判 三八二頁  
其の他圖寫眞入  
定價 二圓五十錢

終

35 セン